

## 【研究ノート】

## オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価 (2)

－前年度との比較を通して－

久保沙織<sup>1)</sup>\*, 宮本友弘<sup>1)</sup>

1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構

2021年度の入試広報活動も、昨年度に引き続きオンラインを中心に実施することとなった。本稿では、高等学校の進路指導担当教員を対象とした入試広報活動である東北大学入試説明会について取り上げ、オンラインでの取組みを中心に成果を報告するとともに、次年度へ向けた課題を析出する。2021年度は、入試センター教員が担当する説明会はオンラインで、学部教員も協働する仙台会場のみは対面で実施された。オンライン入試説明会は、昨年度の実施結果を踏まえて実施時間帯等の変更を加えた上で、6月に18セッション、その後、入学者選抜要項の確定を受けて8月に2セッション実施した。6月と8月の参加者数は、それぞれ174名と55名であった。事後アンケートの結果から、参加者の満足度も十分に高いことが示され、昨年度と同程度のクオリティおよび効果の維持が確認できた。2年間の取組みを通して、オンラインによる入試広報活動の基盤が築かれたと言える。

## 1. はじめに

## 1.1 コロナ禍における入試広報活動の転換

2020（令和2）年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、入試広報活動の方向転換を余儀なくされた。それまで対面で実施されてきた説明会や相談会、オープンキャンパス等の広報活動について、多く大学がオンラインでの実施に切り替えた（例えば新潟大学（吉田ほか 2021）、静岡大学（雨森 2021）、信州大学（一之瀬ほか 2021）、琉球大学（田中ほか 2021）、広島大学（永田ほか 2021）など）。

東北大学もまた例外ではなかった。東北大学が従前より組織的に行ってきた入試広報活動は、高校訪問、入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパスの4つに大別されるが、2020（令和2）年度には、このうち入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパスがオンラインによって実施された（詳細については、倉元ほか 2020、久保ほか 2021a、久保ほか 2021bを参照）。

2021（令和3）年に入ってもなお、新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えることなく、1月7日に首都圏の1都3県で緊急事態宣言が発令されたことに伴

い、1月8日には本学の「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針（BCP）」がレベル2に引き上げられた。さらに、新年度を迎えた4月1日からは、レベル3へと引き上げられることとなった。

このような状況下で、2022（令和4）年度入試に向けた2021（令和3）年度の入試広報活動も、引き続きオンラインを中心に実施する方針となった。ただし、2020（令和2）年度に培ったノウハウや、アンケート等を通じて得た参加者の要望をもとに、2021（令和3）年度は、感染防止対策を徹底することを要件に、可能な範囲で対面による広報活動を併せたハイブリッドでの実施を目指した。

本稿では、高等学校の進路指導担当教員を対象とした入試広報活動である「東北大学入試説明会」を取り上げ、昨年度からの変更点を明確にし、実施結果を比較することで、次年度へ向けた課題を析出する。

## 1.2 東北大学入試説明会

2000（平成12）年度より開始された入試説明会は、東北大学入試センターが主催する主要な入試広報活動

\*）連絡先：〒980-8576 仙台市青葉区川内28 東北大学高度教養教育・学生支援機構 saori.kubo.b3@tohoku.ac.jp

の1つであり、コロナ禍以前は、全国の複数の会場に出向き、対面で実施されてきた。2019（令和元）年度には全国21都市を会場に実施され、中でも仙台会場は、2007（平成19）年度から分科会方式を採用したことで、全国で唯一、各学部の教員による入試解説の機会となっていた（倉元ほか 2020）。

### 1.2.1 令和2年度東北大学入試説明会

2020（令和2）年度の入試説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、はじめてオンラインで実施された（詳細については、久保ほか2021aを参照）。全国を11のブロックに分けて、7月13日（月）から8月7日（金）の間に計39回の説明会を実施し、そのすべてを入試センターの教員が担当した。参加者数は、194校・226名であった。2019（令和元）年度の参加者数は557名であったが、このうち232名が仙台会場への参加者であり、学部教員が説明を担う仙台会場特有の事情や、オンライン入試説明会では、同一高校からの申込み可能人数を1回のセッションにつき2名（2回線）までに制限したことを考慮すると、オンラインでも概ね例年と同程度の参加者を確保できたと評価できる（倉元ほか 2020）。

### 1.2.2 令和3年度東北大学入試説明会

2021（令和3）年度は、入試センター教員が担当する説明会はオンラインで実施し、学部の教員と協働して行う仙台会場のみは対面で実施することとなった。「令和3年度東北大学入試説明会 仙台会場」は、6月29日（火）に、仙台国際センターで開催された。入試センター教員および、東北大学の10の学部（医学部は医学科、保健学科別）、さらには現代的リベラルアーツ、キャリア支援、特別支援の教員を加えた計15名の教員による説明会と、個別相談が行われた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各部屋の収容人数の5割となるよう定員を制限し、事前の参加申込みを必須とした。参加者は、東北地方を中心に総計57校・142名であった。なお、仙台会場における説明会はすべて当日に収録を行い、オンデマンド形式で視聴できるようYouTubeで動画が公開されている。

以下では、昨年度の実施結果をエビデンスとして、いくつかの変更を加えて実施されたオンライン入試説明会を中心に、成果と今後の課題について論じる。

## 2. 令和3年度オンライン入試説明会の実施概要

まず、2021（令和3）年度に実施したオンライン入試説明会の実施概要を紹介する。特に、昨年度のオンライン入試説明会に対する振り返りや参加者への事後アンケートの結果を踏まえた変更点について詳述する。

### 2.1 実施時期

従来の対面での入試説明会は、当該年度の「東北大学入学者選抜要項」の公表時期に合わせて開催されてきた（昨年度の実施時期決定の経緯については、久保ほか 2021aを参照）。「令和4年度東北大学入学者選抜要項」は、2021（令和3）年6月10日に、「暫定版」が公表された。新型コロナウイルス感染症への対応により、試験日程や実施方法に変更が生じる可能性があったことから、暫定版では、入学者選抜日程の概要の一部を「調整中」と記載していた。このような状況であったが、昨年度と同様に、高校教員に対して少しでも早く入試情報を届け、直接的な対話を通して教員や生徒の不安を軽減することを優先し、6月14日（月）から24日（木）（土日を除く）の日程で、オンライン入試説明会を実施することにした。申込み開始は5月24日（月）であった。

その後、7月5日に国立大学協会より「『国立大学の2022年度入学者選抜についての実施要領』の改訂について（通知）」が発出された。これに基づき、入学者選抜日程が再検討され、「調整中」であった日程が確定し、7月30日には、その結果を反映した「令和4年度東北大学入学者選抜要項」が公表された。これを受け、「オンライン入試説明会（内容確定版）」と称して、追加の説明会を8月27日（金）に実施することとし、7月20日（火）には申込み受付を開始した。

### 2.2 6月の入試説明会の実施方法

昨年度と同様、1セッション60分、各セッションの定員は20名とした。2020（令和2）年度のオンライン入試説明会における事後アンケートの結果、一部の参加者がより遅い時間の実施を希望していたことから（久保ほか 2021a）、実施時間帯の見直しを行い、各日、15:30-16:30（全日）と、13:05-14:05または16:00-17:00（隔日）の2セッションとした。

2020（令和2）年度は、全国各地で実施してきた従来の入試説明会をできる限り踏襲しようという基本方針の下、地域ごとにブロック分けを行い、勤務校が所在するブロックの説明会に申し込んでもらう方法をとった。昨年度のオンライン入試説明会への参加者の地域分布から、各ブロックに事前に定めた開催回数（セッション数）は概ね適切であったことが示されたものの、3セッション設定していた東海ブロックのうち1セッションは申込者が0となり流れてしまったり、1セッションのみの設定であった九州沖縄ブロックでは1名しか参加者がいなかったりと、1セッション20名の定員を有効に活用できない事例が生じた（久保ほか2021a）。オンラインによる60分の説明会では、対面の場合のように地域ごとの実情やニーズに合致した情報提供に重きを置くよりも、定員を有効活用し、どの地域からの参加者にも必要な情報を公平に届けることの方が重要であると考え、2021（令和3）年度は、ブロック区分を廃止した。

昨年度と同様、申込みシステムは株式会社フロムページが提供するOCANsを利用し、説明会はZoomミーティングで行われた。

### 2.3 8月の入試説明会（内容確定版）の実施方法

8月27日（金）のオンライン入試説明会（内容確定版）では、6月時点で既に公表されていた事項の解説

は最小限に抑え、新たに確定した内容を中心に説明することを目的としたため、1セッションの時間を45分（質疑応答含む）に短縮し、15:30-16:15と16:30-17:15の2回の実施とした。定員は各回500名とし、申込みフォームはGoogleフォームを利用した。説明会はZoomウェビナーで行われた。

## 3. 令和3年度オンライン入試説明会実施後の評価

### 3.1 6月実施の入試説明会

#### 3.1.1 申込者数と参加者数

2021（令和3）年度6月および2020（令和2）年度のオンライン入試説明会の申込み・参加状況を表1に示した。

表1. 今年度と昨年度の申込み・参加状況の比較

	予定回数	実施回数	申込者数	参加者数	参加率	参加校数
R3	18	18	216	174	80.6%	147
R2	41	39	273	226	82.8%	194

2020（令和2）年度の説明会では、41回のセッションを予定していたが、2つのセッションで申込者が0となったため、実際に実施されたのは39回であったが、2021（令和3）年度は予定した18回のセッションすべてが実施に至った。昨年度から半分以下にセッション

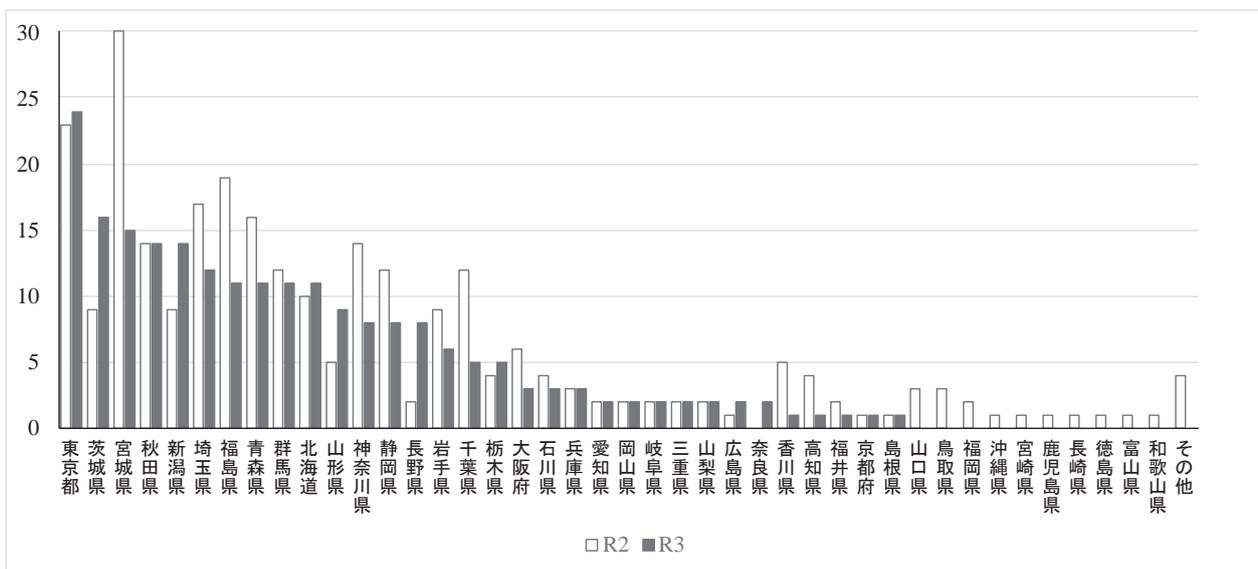


図1. 今年度と昨年度の都道府県別申込者数の比較

数を減らしたことを考慮すると、参加者数、参加校数ともに十分な数を維持できていた。昨年度より少ないセッション数で、20名の定員を有効に使うことができ、より効率的な運営となった。

2021（令和3）年度6月と、2020（令和2）年度の都道府県別の申込者数の比較を図1に示した。2021（令和3）年度は32の都道府県から、2020（令和2）年度は42の都道府県に加えて海外等（図1では「その他」と表記）からの申込者があった。いずれの年度も10名以上の申込みがあった都道府県は、東京都、宮城県、秋田県、埼玉県、福島県、青森県、群馬県、北海道であった。両年度とも申込者のなかった5県（滋賀県、愛媛県、佐賀県、熊本県、大分県）のほとんどが中国・四国地方と九州・沖縄地方に位置しており、当該地方では、昨年度少数ながらも申込みのあった県も今年度の申込者が0となったケースが多かった。一方で、茨城県や新潟県では申込者数が増えており、昨年度申込者のいなかった奈良県から、今年度は申込みがあった。ブロック区分の廃止による影響は大局的には見られなかったが、中国・四国地方および九州・沖縄地方は、例年、東北大学への志願者・入学者のシェアも少ない地域であり、まずはいかにして本学への関心を持って

表2. セッション別参加状況（6月）

実施日	時間	セッション	申込者数	参加者数	参加率
14日 (月)	15:30-16:30	①	20	15	75.00%
	16:00-17:00	②	20	16	80.00%
15日 (火)	13:05-14:05	③	14	11	78.60%
	15:30-16:30	④	12	9	75.00%
16日 (水)	15:30-16:30	⑤	12	8	66.70%
	16:00-17:00	⑥	12	11	91.70%
17日 (木)	13:05-14:05	⑦	7	6	85.70%
	15:30-16:30	⑧	12	10	83.30%
18日 (金)	15:30-16:30	⑨	9	7	77.80%
	16:00-17:00	⑩	20	16	80.00%
21日 (月)	13:05-14:05	⑪	14	11	78.60%
	15:30-16:30	⑫	11	9	81.80%
22日 (火)	15:30-16:30	⑬	8	8	100.00%
	16:00-17:00	⑭	13	10	76.90%
23日 (水)	13:05-14:05	⑮	10	9	90.00%
	15:30-16:30	⑯	6	5	83.30%
24日 (木)	15:30-16:30	⑰	5	5	100.00%
	16:00-17:00	⑱	11	8	72.70%
合計			216	174	80.60%

もらうかが課題になるだろう。

表2に、セッション別の参加状況をまとめた。期間の初めの方が申込者数・参加者数が比較的多かったように見受けられるが、時間帯の違いによる申込者数・参加者数の顕著な偏りは見られなかった。

### 3.1.2 事後アンケートの結果

昨年度と同じ項目内容で、参加者に対する事後アンケートを実施した。項目は表3に記載した。回答は任意とし、106名からの回答を得た。参加者の総計に対する回収率は60.9%であった。

表3. 事後アンケートの項目（6月）

<p>Q1 参加した説明会のセッション番号を選択してください。【必須】</p> <p>①～⑱より選択</p> <p>Q2 説明会の時期についてはいかがでしたか？【任意】</p> <p>「1. ちょうど良い時期である」、「2. 早すぎる（いつ頃が最適か）」、「3. 遅すぎる（いつ頃が最適か）」から選択</p> <p>Q3 曜日・日時設定についてはいかがでしたか？【任意】</p> <p>「1. 特段の不都合はなかった」、「2. 参加しにくい時間設定だ（どのような曜日・時間設定が最適か）」から選択</p> <p>Q4 説明会の内容について伺います。東北大学のAO入試等について、十分な情報が得られましたか？【任意】</p> <p>「1. よくわかった」、「2. 大体わかった」、「3. 情報が不十分だ（どのような情報が不足していたか）」から選択</p> <p>Q5 配布資料についてはいかがでしたか？【任意】</p> <p>「1. 十分な内容だ」、「2. 多すぎる（どのような資料が余分か）」、「3. 足りない（どのような資料が不足か）」から選択</p> <p>Q6 説明の進め方、プレゼンテーション等はいかがでしたか？【任意】</p> <p>「1. わかりやすかった」、「2. わかりにくかった（どんなところがわかりにくかったか）」から選択</p> <p>Q7 その他、ご要望、お気づきのことがあればお聞かせください【任意】</p> <p>自由記述形式</p>
---

Q2からQ6の回答結果について、昨年度との比較を表4から表8に示した。数値は、それぞれの選択肢を選択した回答者の割合（%）を表している。

昨年度の時点で、いずれの項目に対しても肯定的な回答が概ね9割を超えていたが、今年度はさらに高い評価が得られた。特に、Q2の時期に関しては「ちょうど良い」という回答が100%であった。昨年度は、新型

表4. Q2 時期

	ちょうど良い	早すぎる	遅すぎる
R3	100.0	0.0	0.0
R2	89.5	3.3	7.2

表5. Q3 曜日・日時

	特段の不都合はなかった	参加しにくい時間設定だ
R3	94.3	5.7
R2	91.4	8.6

表6. Q4 説明会の内容

	よくわかった	大体わかった	情報が不十分だ
R3	67.0	33.0	0.0
R2	54.6	42.8	2.6

表7. Q5 配布資料

	十分な内容だ	多すぎる	足りない
R3	97.2	0.9	1.9
R2	95.4	1.3	3.3

表8. Q6 プレゼンテーション

	わかりやすかった	わかりにくかった
R3	99.1	0.9
R2	98.7	1.3

コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で7月中旬からの開始となったが、今年度は2019（令和元）年度までとほぼ同様の日程に戻すことができたためであろう。

Q3の曜日・時間について、「参加しにくい時間設定だ」という選択肢を選んだ回答者のほとんどが16時以降、あるいは17時以降のさらに遅い時間を希望していた。しかしながら、昨年度も同様の意見があったことを踏まえて、今年度は隔日で16:00-17:00という時間帯を設定していた。高等学校によって時間割が異なることを考慮し、17時以降の時間設定については次年度に向けて再度検討する。

Q5で配布資料が「足りない」と回答した教員の1人は、「国際バカロレア（IB）入試関連の資料が欲しい」と述べていた。入試説明会は、もともと東北大学型の「学力重視のAO入試」を広くアピールするために開始されたものであり、現在は本学の学部入試全体の考え方を説明する機会として（倉元ほか 2020）、AO入試および一般選抜について詳しく解説している。本学の場合、国際バカロレア入試を含む特別選抜は、ほと

んどどの学部で募集人員を「若干人」としていることもあり、入試説明会では説明に時間を割いていない。具体的にどのような資料を希望しているのかを明らかにし、多くの参加者にとって興味関心の高い内容であれば、特別選抜に関しても資料を加えるよう、配布資料の見直しを行いたい。

Q7の自由記述項目では、「たくさんのセッションをつくっていただいたので助かりました。」といった、多くのセッションが用意されていたことで、特段予定の変更をする必要がなく参加しやすかったという主旨のコメントが複数あった。時間帯の選択肢を設け、計9日間にわたり18回のセッションを設定したことが支持される結果となった。

説明内容については、とてもわかりやすかったという声が多く、「質問にも丁寧にお答えいただきありがとうございました。」というように、質疑応答の対応についても好意的なコメントがあった。「東北大学のAOに対する考え方や求める生徒像が良く伝わってきました。」「説明を聞けば聞くほど東北大学に本校の生徒を入学させたいと感じました。AO入試から頑張らせるようにこれから生徒に指導していきます。」のような記述が見られ、本説明会が、東北大学のアドミッション・ポリシーや入試に関する情報提供の機会として適切に機能し、それらの情報が高等学校における進路指導に還元されていることが確認できた。

また、昨年度は、参加者の中には本説明会に参加するために初めてZoomを利用したという教員も含まれていて、一部の教員から、申込みシステムやPC等の操作上の躓きに関するコメントが寄せられていた（久保ほか 2021a）。しかし今年度は、マイクやカメラの機能がなくPCを利用していたことで、スムーズな対話ができなかった、あるいは質問したかったことを直接聞けなかった、等の報告はいくつかあったが、操作そのもので躓いたという記述はほとんど見られなかった。この一年間で、高校教員側もオンラインイベントへの参加やPCの操作等に慣れたようであった。

### 3.2 8月実施の入試説明会（内容確定版）

#### 3.2.1 申込者数と参加者数

8月27日（金）に実施したオンライン入試説明会（内

容確定版)のセッション別の参加状況を表9に示した。参加者数は、セッション①が17名(17校)、セッション②が38名(38校)であった。

また、セッション①と②を合わせて、申込者数を都道府県別に示したグラフが図2である。関東地方と東北地方を中心に、北海道から沖縄まで22都道府県から申込みがあった。

表9. セッション別の申込み・参加状況

セッション	申込者数	参加者数	参加率
15:30-16:15	26	17	65.4%
16:30-17:15	45	38	84.4%

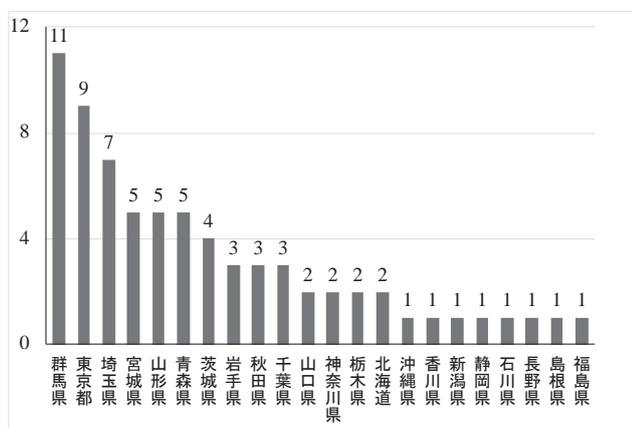


図2. 8月実施の入試説明会への都道府県別申込者数

### 3.2.2 事後アンケートの結果

オンライン入試説明会(内容確定版)では表10のような項目で事後アンケートを実施した。回答は任意とし、53名からの回答を得た。参加者の総計に対する回収率は96.4%であった。

表10. 事後アンケートの項目(8月)

Q1 参加した回 ①, ②より選択
Q2 令和3年6月に実施した東北大学オンライン入試説明会に参加しましたか 「参加した」, 「参加しなかった」から選択
Q3 今回(8月27日)の説明会に参加してよかったですか 「はい」, 「いいえ」から選択
Q4 感想や要望があれば自由にお書きください 自由記述

Q2で、6月に実施したオンライン入試説明会に「参加した」と回答した人が25名(47.2%), 「参加しなかった」と回答した人が28名(52.8%)であり、およそ半数が、東北大学オンライン入試説明会への今年度初めての参加であった。

Q3に対しては、回答者53名全員が「はい」と回答していた。参加者の満足度が非常に高かったことから、今回、入学者選抜日程が確定し、「令和4年度東北大学入学者選抜要項」が完成版として公表されたことを受けて、オンライン入試説明会(内容確定版)を実施したことの意義が認められた。

Q4の自由記述では、丁寧な説明でわかりやすかったといった感想が多く、6月の説明会に参加していない教員から、「文科省の選抜実施要項公表の遅れに伴い、2度入試説明会を開催していただきました。具体的な変更点は、資料のアンダーラインのところだと思いますので選抜要項で確認させていただきます。」等のコメントがあった。6月にも参加した教員は「方針にブレがなく安心いたしました。」と述べていた。

## 4. まとめと今後の課題

### 4.1 令和3年度の入試説明会について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに、東北大学入試センターが主催する入試広報活動においてオンラインを活用することとなり、2年目を迎えた。本稿で取り上げた、高校教員を対象とした入試説明会は、2021(令和3)年度には、入試センター教員が担当する説明会はオンラインで、学部の教員も協働して行う仙台会場は対面で実施された。

オンライン入試説明会については、昨年度の実施結果に対する包括的な評価をもとに、実施方法の一部を変更して行った。今年度は、時間設定を工夫した上でセッション数を半分以下に減らしたが、6月と8月の説明会を合わせると、昨年度と同程度の参加者数を確保できた。事後アンケートから、実施時期や時間帯等の設定、そしてプレゼンテーションや質疑応答等の説明会の内容について、昨年度以上に高く評価されることが確認できた。入学者選抜要項の確定に合わせて、8月に追加でオンライン入試説明会(内容確定版)を実施したこともまた、好意的に受け止められていた。

総じて昨年度と同等のクオリティと効果が維持できている。もとより高い水準にあった参加者の満足度がさらに向上していたことから、2年間の取組みを通して、高校教員を対象とした入試説明会をオンラインで実施する際の方法論の基礎が確立できたと言って良いだろう。

一方で、本説明会への申込者には、地域による差異があることが明らかになった。特に申込者の少なかった中国・四国地方および九州・沖縄地方は、東北大学からの地理的距離も遠く、志願者・入学者の少ない地域である。このような遠方地域に対する入試広報としてどのようなアプローチが有効か、今後検討していく必要がある。

対面で実施した仙台会場については、すでに述べたように、教員15名すべての説明会を収録し、YouTubeで動画を公開している。本稿では、入試センター教員によるオンライン入試説明会を中心に論じたが、YouTube等でのオンデマンド型コンテンツの提供も、オンラインを活用した入試広報活動の1つの形である。今回の収録動画公開の効果については別途検証を行い、次年度以降の広報活動に活かしていきたい。

#### 4.2 次年度以降の展開へ向けて

この2年間で、オンラインによる入試広報活動に関するノウハウが蓄積され、一定程度のクオリティを維持するための基盤を築くことができた。次年度以降は、アフターコロナの社会を見据え、対面とオンラインをいかに組み合わせ、どのようにハイブリッドで展開していくかを現実的に検討しなくてはいけない段階となるだろう。

2021（令和3）年度の東北大学入試説明会では、仙台会場における各教員の説明会はオンデマンド型コンテンツとして提供している。全国の複数の都市で実施されてきた東北大学入試説明会の中でも、仙台会場は、各学部の入試に関する説明を当該学部の教員から直接聞くことのできる唯一の機会である、という特徴があった。今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況が収束したとしても、学部教員の負担やコストを勘案すると、全学部の教員が入試センター教員と共に全国数十の会場に出向いて説明を行うことは難しい。この

ような状況において、特別な機会をより多くの高校教員が享受できるようにするための1つの方法として、オンデマンド型コンテンツは有意義であろう。オンデマンド型コンテンツの今後の継続活用については、アクセス解析や満足度調査等による効果検証を行い、エビデンスに基づいた検討を進めていく。

これに対して、入試センター教員のみが担当したオンライン入試説明会はZoomミーティングやZoomウェビナーによるリアルタイム型で行われ、いずれも説明会の後に質疑応答の時間を設けた。オンデマンド型とは異なるリアルタイム型の一番の魅力は、双方向コミュニケーションが可能な点である。対面の入試説明会では、説明会の後に任意で利用できる相談ブースが設けられていたが、オンラインとなっても質疑応答の時間が確保されていたことが、参加者の高い満足度の要因の1つとなっていたのではと考える。

6月に実施したオンライン入試説明会における事後アンケートの自由記述の中には、「オンラインで実施していただけたので、出張や授業の振り替えをしなくて済んでありがたかったです。」という意見もあり、移動コストの削減といったオンライン特有のメリットを実感している参加者も一定数いたようである。その一方で、中国・四国地方や九州・沖縄地方等、遠方の高等学校の教員には、あまり参加してもらえていないという実情も明らかになった。

2019（令和元）年度まで対面で実施していた際には、岡山県、広島県、そして福岡県でも入試説明会が開催されており、当初から、これらの会場は他の会場に比較して参加者数が顕著に少ない傾向にあった（倉元ほか2020）。それでも対面で行うことの意義は、入試広報活動の実施者側にこそあった。それは、遠隔地域に限らないが、各地で入試説明会を実施することにより、東北大学への志願者層を擁する当該地域の複数の高等学校の教員コミュニティ、言わばステークホルダーの集団に、こちらからアプローチする貴重な機会となっていた、という点である。入試説明会は、東北大学と高校教員との間における情報交換の場としても機能しており、そこでの交流を通じて、高大接続に関わる地域固有の問題が見えてくるケースもあった。

オンラインでも双方向コミュニケーションは可能で

あるものの、オンライン入試説明会の場合には、仮想的にはあるが、全国各地の高等学校から一箇所に集合してもらっている状況と同じである。ここに、対面とオンラインとの本質的な違いが見出された。オンライン入試説明会への参加者が少なかった地域にも、こちらから出向き、ニーズアセスメント等を通して、参加動機を促進する要因に関する検討を丁寧に行うことで、徐々に東北大学に目を向けてもらうことにつながるのではないだろうか。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大という緊急事態を契機として、東北大学における入試広報活動のオンライン化が促進されることとなったが、従来の対面での広報活動の意義についてや、オンラインの果たす役割、そして今後の入試広報活動のあり方についてなど、熟考するきっかけともなった。アフターコロナにおける東北大学の入試広報活動の新たな展開に向けて、この2年間の取組みの成果を活かしていきたい。

## 謝辞

本研究はJSPS科研費JP21H04409の助成を受けた研究成果の一部である。

## 参考文献

- 雨森聡 (2021) 「コロナ禍で変わる入試広報 — 静岡大学全学入試センターの実践報告 —」, 『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第16回) 研究発表予稿集 (オープンセッション用)』 独立行政法人大学入試センター, pp.41-46.
- 一之瀬博・木村建・海尻賢二・平井佑樹 (2021) 「コロナ禍における信州大学アドミッションセンターの入試広報活動」, 『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第16回) 研究発表予稿集 (オープンセッション用)』 独立行政法人大学入試センター, pp.47-52.
- 久保沙織・南紅玉・樫田豪利・宮本友弘 (2021a) 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」, 『大学入試研究ジャーナル』 第31号, pp.394-400.
- 久保沙織・南紅玉・樫田豪利・宮本友弘 (2021b) 「オンラインによる入試広報の展開 — 『オンライン進学説

- 明会・相談会』の実践を通して —」, 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 第7号, pp.57-65.
- 倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・南紅玉 (2020) 「東北大学における入試広報活動の『これまで』と『これから』 — 頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ —」, 『教育情報学研究』 第19号, pp.55-69.
- 永田純一・三好登・竹内正興・杉原敏彦 (2021) 「オンライン入試広報活動の課題と展望 — 広島大学を事例に —」, 『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第16回) 研究発表予稿集 (オープンセッション用)』 独立行政法人大学入試センター, pp.65-70.
- 田中光・山田恭子・浦崎直光 (2021) 「沖縄県内の高校を対象としたオンライン大学説明会の効果」, 『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第16回) 研究発表予稿集 (オープンセッション用)』 独立行政法人大学入試センター, pp.53-58.
- 吉田章人・並川努・坂本信 (2021) 「オンラインによる入試広報の実践」, 『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第16回) 研究発表予稿集 (オープンセッション用)』 独立行政法人大学入試センター, pp.35-40.